

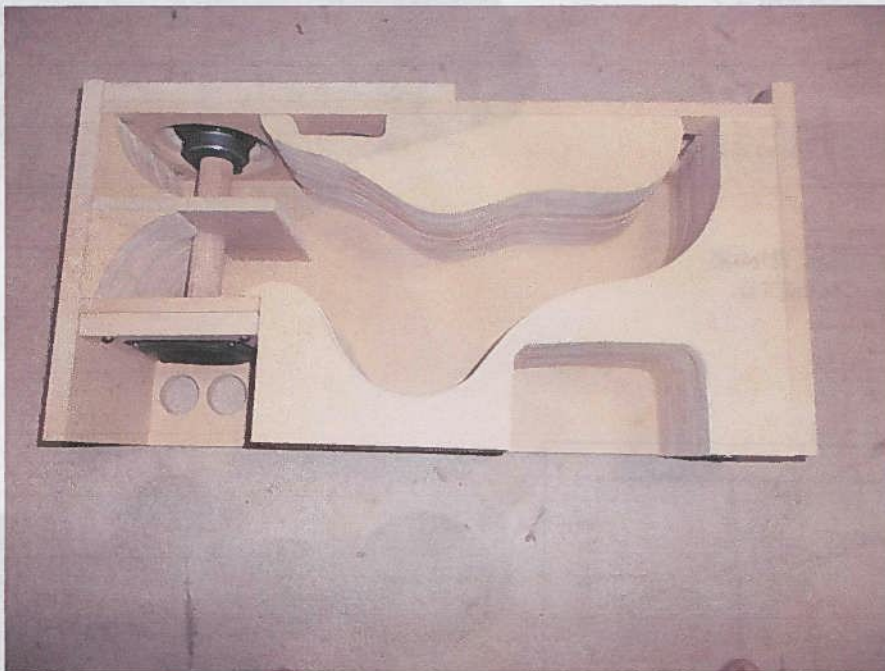
Stereo誌付録のユニットを使用したスピーカー

2015-9-19 三土会資料

海老沢@東京・品川

Stereo誌の付録のフォステクス製10cmフルレンジユニットを2個/ch使用したスピーカーシステム。雑誌の付録だけあってマグネットが小さく(FE103の約半分の重量しかない)ひ弱なユニットです。聴感上も比較的綺麗な音がするものの、パワー感の無いのは否めません。以前からユニットを対向させたスピーカーシステムに興味があったので今回製作してみました。背面のユニットはスイッチの切り替えにより、正相-off-逆相にすることが可能です。

低域の増強の方式はバスレフより、強力な低域が得られるとされているTLSを採用しました。内部構造を下図に示します。



■試聴に使用したCD

- ①”土と水” DuoLive in 萩 山本 紘市 ASC200101
- ②J.S.Bach Martin Zeller MA Recordings M073A
- ③怒涛万里 鬼太鼓座 JVC VICG-60201
- ④時のまにまにIV 時代 井筒香奈江 Gumbo Records R-1461031MT



CD番号	アーティスト	アルバム名	レーベル
ASC200101	山本 紘市	”土と水” DuoLive in 萩	ASC
M073A	Martin Zeller	J.S.Bach	MA Recordings
VICG-60201	鬼太鼓座	怒涛万里	JVC
R-1461031MT	井筒香奈江	時のまにまにIV 時代	Gumbo Records

今年のユニットは
ステレオ付録史上

最大

サイズ

フォステクス× Stereo 共同企画

ステレオ 8月号 (7月18日発売) 予価¥3,990 (本体価格¥3,694)

特別付録: 10cmフルレンジ・スピーカーユニット (×2)

予約受付中!

ユニットの特徴

その①

「バナナバルブ配合軽量コーン/布アップロールエッジ」採用
コーン紙はバナナバルブをベースに2つの異なる物性に調整した木材バルブを混ぜることで、軽量ながら十分な剛性と損失を保有。エッジはアップロール形状により高ストローク化を図り、布エッジを採用することで高能率を実現している。

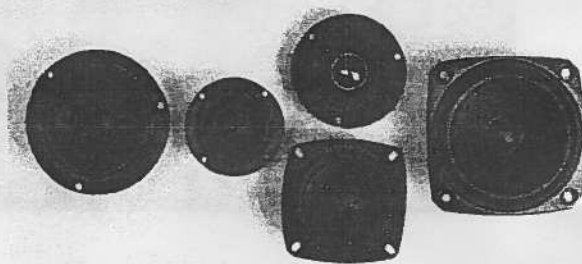
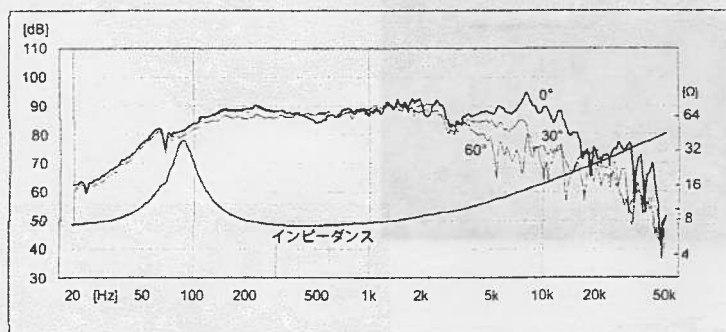
その②

「メカニカル2Way センターキャップ」採用
センターキャップはコーン紙と同じ材料を使用し、音色の統一感を高める。またボイスコイルボビンと直結、メカニカル2Way構造とすることで高域の再生帯域を拡張している。

その③

「ガラスコンポジット・ボイスコイル・ボビン」採用
ボイスコイル・ボビンにはガラスコンポジット材を採用。充分な剛性により駆動力を正確にコーン紙とセンターキャップに伝達する。

P1000 周波数特性



左から、2012年付録「スキヤンスピーク10cm」、2013年付録「スキヤンスピーク5cm」、2014年付録「フォステクス2Way」そして一番右が今年付録のフォステクス10cm。付録史上最大のサイズ!

P1000 規格

形式	10cmコーン形フルレンジ
インピーダンス	8Ω
最低共振周波数	90Hz
再生周波数帯域	f0 ~ 16kHz
出力音圧レベル	88 d B/w(1m)
入力 (NOM)	12W
m0	3.3g
Q0	0.8
実効振動半径	4.0cm
マグネット質量	103g
総質量	303g
バツル穴寸法	φ 94mm
標準エンクロージャー方式	バスレフ

P1000 外形寸法

